



紺 碧

調布稲門会 会報

2015.1 No. 41号

事務局 調布市若葉町 2-22-10

元木 勇 気付

Tel 03-3300-4554

Fax 03-3300-8728

編集責任者 五十嵐真 高原浩

会員拡大が今年も重要課題、調布稲門会の存在もっと衆知を――新年にあたって

会長 元木 勇 (昭37政経)

新年明けましておめでとうございます。会員、準会員の皆様にはお元気で、新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。今年は未「ひつじ」年です。

未「ひつじ」は家族の安泰を示し、いつまでも平和に暮らすことを意味します。今年も安心して安全に暮らせる、ぬくもりと魅力あふれる豊かな年でありますように願っています。

平成24年8月、京王線柴崎―西調布、相模原線京王多摩川

―調布間の地下化が完成し18の踏切がなくなり、南北の分断が解消されたことで、まちの一体化が進み調布・布田・国領の各駅には魅力ある中心市街地が形成されようとしています。

さて昨年12月7日(日)開催されました恒例の第37回調布市福祉バザーに参加出店の際に、数々の品物のご寄付を頂き、ご芳志のほど誠にありがたく、また火を使っての「焼き餃子」は今回も大変評判がよく完売になり、これもひとえに皆様のご協力の賜物と心より御礼申し上げます。今回はバザー会場が市役所・たづくり前から駅前広場へと変わり、幸い好天に恵まれ、また駅前という地の利もあり盛況裡

に終了することができました。売上げも順調に伸び、社会福祉協議会への寄付金は昨年を大幅に上回る金額14万1960円とすることができました。これも皆

様方のご支援、ご協力の賜物と感謝申し上げます。上げる次第でございます。

私たち調布稲門会の目的はご承知の通り、①会員相互の親睦②母校早稲田大学の発展に寄与する③地域社会への貢献―となっております。スポーツや趣味を通

し、先輩や後輩が顔を合わせ、親睦を深める絶好の機会でもある同好会活動が「10」あり、ぜひ参加して楽しんで下さい。それぞれの同好会が積極的に活動を続けています。

会員の拡大が今年も重要な課題です。調布稲門会の存在を知って頂き、一人でも多くのお知り合いの方を誘って一緒に参加して頂けるように働きかけて下さい。最後に、今後とも調布稲門会に対してご支援、ご協力、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。また皆様のご健勝とご多幸をお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。[写真は早稲田キャンパスの新3号館(政経学部)＝元本館、早大ホームページより]



多摩地区12番目、盛大な設立総会——調布稲門会設立の思い出

名誉会長 林 貞夫(昭25 法)

昭和56年10月、調布稲門会の設立総会が、来賓、校友160人余の出席のもとに盛大に開催されました。早大のトップ交代の時だったとはいえ清水総長、西原次期総長、友田校友会代表幹事が揃って祝辞を述べられたことは、今では考えられませんが、多摩地区12番目の調布稲門会に対する期待の現れだったと思います。私は会長就任の挨拶で大学スポーツの復活、特に野球、ラグビー、箱根駅伝の強化を訴えました。懇親会では戦前の東京六大学野球のホームラン王、呉明捷氏の甲子園と神宮球場の思い出と、日本テレビの福富達氏のスピーチはいまでも覚えています。校友同士はほとんど初対面でしたが、なかに地元の会合で面識はあったが「ヤア！君も早稲田だったか」と、話が弾むグループもあり会場は熱気が溢れました。

翌年の総会は大学100周年の年でもあり、西原、清水新旧両総長をはじめ120人規模で開かれました。設立総会で復活を望んだ野球、ラグビー、箱根(復路)がそれぞれ優勝し、100周年に花を添えました。祝宴のパフォーマンスも前年に増して華やかで、府中の校友として出席された「現代の語り部」元ミス東京の平野啓子さんと、元ヤクルトスワローズ安田投手の語りと熱唱は会場を沸かせました。

昭和61年に調布三田会が発足し、以来、総会の出

席、スポーツ交流、福祉まつりの収益など全て早慶戦と位置づけ、互いに競いつつ親しくお付き合いしてきましたが、近年は少し疎遠になった気もします。三田会・稲門会合同の総会など計画してはどうかと思うのですが。

こうして華やかにスタートした調布稲門会ですが、設立の動機は昭和54年10月に府中校友会会長の松本氏が会社に来られて結成を勧められたことです。直ちに当時、調布市議2期目で立川高校(旧制府立二中)の後輩でもある吉尾勝征氏にこの話を伝えたところ、その人脈で富沢慎哉(故人)、元木勇、嶋田太郎、磯田要、堀龍之介氏等を中心に有志が集い、昭和56年4月に準備委員会を結成しました。その後、会合を重ね、名簿を頼りに元木氏等と個別訪問したことも懐かしく思い出されます。

吉尾氏が秋の叙勲で旭日中綬章を受章されたことは調布稲門会にとっても誠に名誉なことと心から祝福致します。同氏が永年にわたって調布市政の発展に貢献したことは市民の等しく認めるところですが、調布稲門会設立の恩人だったことも披露します。

結びに調布稲門会が会員の親睦と増強、母校への協力、地域社会への奉仕を軸として活動し益々発展することを希望します。

福祉まつりバザーに全力参加、稲門会の寄付金増勢に

高原 浩(昭44法)

年末恒例の「調布市福祉まつり」(調布市社会福祉協議会主催)のバザーが2014年12月7日(日)に調布駅南口広場で盛大に開かれ、今回も調布稲門会は出店者として全力を挙げて取り組みました。今回はプラス要因が重なり売上げ収益から14万円余を社協に寄付することができました。前年の売上げ不振を挽回して、前々年並の寄付額に回復できました。

福祉まつりへの参加は、稲門会が会是の柱の一つにしている地域社会への貢献の事業として毎年、意欲的に取り組んでいるもので、今回から開催場所が調布駅南口広場になりました。市内の多くの公的団体がこぞって参加、大学校友会関係では稲門会のほかに慶応、明治、中央、学習院、東海などの各校が参加、会場には色とりどりの校名入りのぼりが林立

し、正月の箱根駅伝の応援風景をほうふつとさせていました。



今回、稲門会は会場中央の広場に近い場所で大型テント2張りを使用(1番目の写真参照)。幹事有志が早朝7時過ぎに集合、2台のワゴン車で品物が入った多数のダンボール箱を搬入し品物をおおわらわで棚机に並べるなどして準備作業を急ぎ、午前9時半からの販売開始を目指しました。今回は会場が変わったこともあって商品陳列のレイアウトも現場で急ぎょ決定、「バッグ、カレンダーなどの大物雑貨」「装身具やキャラクター商品・置物などの小物雑貨(50円均一)」「陶磁器」「衣類」「焼き餃子実演販売」のコーナー構成となりました(2番目の写真参照)。販売開始時間を待ち切れずに商品を手にお客さんも結構いました。稲門会名物となった焼き餃子実演販売にも多くのお客さんが訪れて、テント前の中央広場に並んだテーブル席で舌鼓を打っていました。餃子は午後1時半には完売、また商品販売は午後二

時過ぎまで粘って売上げの努力を重ねました。そして午後3時には撤収。



バザーの前日6日(土)には、品物の収集・整理・値付けという力仕事に20人ほどの有志幹事・会員が、例年仕分け会場に使わせて頂いている爽爽荘(飛田給にある校友経営の老人ホーム)に集結し、半日ばかりでバザーの商品準備に汗を流したことも特記しておきます。

今回は会場が足の便の良い場所に変わり、好天にも恵まれ全般に客足はよく、売値を安めに設定したこと、制限時間ぎりぎりまで販売を粘ったこと、有志幹事のボランティア的購入が多かったことなどのプラス要因があったため、収益金のうち、前々年並みの14万1960円(前年8万4673円)を寄付することができました。12月10日に堀内幹事長と石井副幹事長が社協を訪れ、寄付金を手渡しました。

「サロン・ド・三多摩」足場に他稲門会校友とも交流——稲門祭に参加して

幹事長 堀内 正之(昭46法)

「おはようございます!」「おう、お久しぶり!」「いい天気ですね!」「今年は何を出すの?」「スタッフは500円払ってお酒とおにぎりはご自由に!」10月19日朝、大隈庭園に元気な声が飛び交いました。年に一度、全国の支部稲門会や同好会稲門会、年次稲門会などが一堂に会し、大学構内いっばいに模擬

店を繰り広げる稲門祭の始まりです。ジャズの演奏や系列校小学生の踊り、応援部チアリーダーのアクロバティックな演舞も彩を添えます。

26の稲門会から成る東京三多摩支部は8年前、町田稲門会の提唱により「サロン・ド・三多摩」と銘打った模擬店を出しました。調布稲門会は最初から

参加しているとのこと。取りまとめ役はずっと立川の佐竹氏がやっておられます。今年は10稲門会が参加し、地域の名産品を販売しました。

狛江は枝豆を原料とした地ビール(赤字持ち出しだそうです)、稲城はもちろん梨です。小平はブルーベリー栽培発祥の地としてブルーベリー菓子を、西東京はかりんとうが有名とのことでその即売です。三多摩支部からは一升瓶が何本も。

わが調布はペットボトルのお茶。岡田幹事が手配して生協から納品されました。他支部は地元名産品ですから当然、車で持ち込みでしょう。次回は深大寺そばなどなにか工夫が欲しいなあと思いましたが、身一つで参加というわけにいかないでしょうから難

しいところですね。調布稲門会からは先ほどの岡田氏のほか芦沢幹事、小笠原副会長、山田幹事も他の団体・役割としていらしておられました。

販売員は私一人でしたが、他の稲門会は3~5人くらいの参加です。最初からの参加団体としてはもっと積極的に多くのお手伝いが欲しいところです。

500円で飲み放題のお酒のおかげでしょうか、近隣以外の他稲門会の方とも親しくなり一緒に写真を撮ったりしました。名刺を交換し、写真を送ることを約束し、飲み会に誘われるなど新しい人間関係も生まれました。皆様にも積極的に稲門祭に参加されることをお勧めします。新しい刺激は脳の活性化に役立ちますからね。

吉尾勝征顧問、旭日中綬章を受賞 秋の叙勲

2014年秋の叙勲で調布稲門会顧問の吉尾勝征さん(元調布市長)が旭日中綬章を受章されました。長年、調布市長を務められ地方自治の功労者として選ばれ受章されたもので、11月3日付各紙朝刊「秋の叙勲」特集記事で上位受章者中に吉尾さんの名も記されました。調布稲門会としても名誉なこと、ここに祝意を表すとともに受章された吉尾さんに「受章に当たって」と題する喜びの言葉を寄稿して頂きました。(編集部)

受章に当たって

顧問 吉尾 勝征(昭43法)

新年明けましておめでとうございます。皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて私こと平成26年秋の叙勲に際しまして、はからずも旭日中綬章を拝受する栄に浴しました。去る11月7日に総務大臣から勲記勲章の伝達を受け、引き続き夫婦ともども皇居に参内し春秋の間において天皇陛下に拝謁の栄を賜り感激の極みでございました。これもひとえに調布稲門会の皆様をはじめ、市民の皆様のご指導ご鞭撻の賜物と心から御礼申し上げます。大学の鎌田総長先生からもご丁寧な祝意を頂戴しました。

内閣府賞勲局によりますと、「旭日章は明治8年に制定された我が国最初の勲章であり、功績の内容に着目し、顕著な功績を挙げた者に授与される」のだそうです。ここからは申し上げなくていい裏の話なのですが、「私の場合」の「私の照れ隠し」として触

れてみます。

一つ目は、私は市長5期目の選挙で僅差とはいえ失敗しています。以後12年余、申し訳なくて喪に服する思いで表舞台を遠ざけてきました。それが突然の「叙勲内定の連絡」に遭遇します。実感が湧きませんでした。もっとも5月に70歳になったので、受章の有資格者にはなっていたのでしょうか。

二つ目は、私の受章は自治功労部門ですが、どんな「顕著な功績」があったのか、私はもとより誰にも明らかにされないのです。議員を何年、市長を何年とか、刑に処せられたことがないといった客観的なことしか、受章基準にはなりにくいのでしょうか。

こうしたことからご理解頂けるように今回の受章は、市民の皆さんのまちづくりの努力を代表して、私がお預かりしてきたと言って間違いありません。その意味で、とっても価値ある誇り高い受章だと思っています。有難うございました。

早大国際学生寮内に「調布稲門会」寄付記念プレート

(編集部)

早大中野国際コミュニティプラザ内に2014年3月に開所した国際学生寮(WISH)に調布稲門会の寄付記念プレート(写真)が設置されています。寄付した多くの団体の銘版が各寮室の入口ドア横にひとつひとつ掲げられているものです。

いまWISHには世界中から集った約900人の学生、留学生が共同生活をしており、早大の次代を担



うグローバルリーダー育成の拠点といえます。その寮費を軽減する原資として多くの校友(国内外の稲門会など)が寄付をしました。

寄付した団体のうち、国内の地域稲門会は約50ありますが、調布稲門会はそのひとつ。1109号室の入口横右上の壁に、その支援を顕彰するアクリルガラス製の記念プレートが設置されています。ワセダカラーのえんじ色の下地に金色文字で

「Chofu Tomonkai Unit」と記されています。

寮室は原則4人で1単位、個室と、共用のリビングで構成、プライバシーを保ちながら仲間との良好な関係を築いていくことができ、また運動室や音楽室、大浴室、共同の大キッチンといった共用施設も充実しています。調布稲門会の寄付行為がWISHの運営に少しでもお役に立っているようで嬉しいことです。調布稲門会のプレート写真は早大校友会のホームページ内の「国際学生寮WISH」に他の地域稲門会の写真と並んでいますので、ぜひ一度ご覧になって下さい。

紺碧の自由広場のコーナー

シルクロードの十字路を往く――短歌でたどる「ウズベキスタン紀行」

山本 建治(昭43院理工)

「語ろうアースカフェ」主催のウズベキスタン旅行(2014年8月末～9月初め)に参加しました。以下、旅の先々で私が読んだ短歌をまとめてみました。
(8月29日)ゴビ砂漠からタクラマカン砂漠・天山山脈・パミール高原の上空を飛びタシュケントへ。同地の日本人墓地で献花。

- ・あの山は尋ねし我にテンシャンと
笑顔で返すウズベク女性
- ・アッサローム・アレイクムと挨拶すれば
口許に笑みこぼれるウズベク男は
- ・タシュケントで最初に行くは墓地なりき
ここで没せし日本人抑留者

(8月31日)タシュケント市内見学後、マシフラさ

ん(調布でのウズベキスタン講座の講師)のご両親宅訪問、その後、ヌクスへ。

- ・タシュケントで我ら10人歓迎され
マシフラ邸はにぎやか極む
- ・日本の文学研究の人があり
カキノモトヒトマロ発言にぶったまげる
- (8月31日)バスの乗りヌクスからヒヴァへ向かう。
途中砂漠のオアシスに立ち寄り、農家の畑のメロンをご馳走になり、アヤズカラ遺跡で昼食を取る。
- ・砂漠には鳥葬用のカラ残る
死者を啄ばむ驚みえなくも
- ・畑からメロンもぎ取り立ち寄りの

我らにふるまうウズベク農夫

(8月31日) ヒヴァ着。イチャンカラ内部に入る。

- ・ミナレットへ三日月かかる砂漠の夕
テラスでワイン空仰ぎたり

(9月1日) 朝、ヒヴァのバザールへ。

- ・朝方のにぎわうバザールの初買いは
彩り豊かプラムと林檎

(9月1日) 11時頃、ヒヴァからブハラへ向け出発。

- ・ブハラへと続く砂漠道昔日は
シルクロードと人は呼びたり

(9月1日/2日) ブハラにて。

- ・フルーツのあまりのうまさに腹こわす
これから我慢の絶食でいく

(9月3日) ブハラからサマルカンドへ。

- ・街道に背高きポプラ植えられし

風に揺られて砂漠忘れる

(9月3日) シルクロードの十字路サマルカンド。

- ・沢山の異名を持つこの街は
青の都に東のローマ

(9月4日) サマルカンド/旅のハイライト・レジスタン広場。ウズベキスタン最後の日。

- ・街道に林檎や柿を植えて育て
旅人慰むこの国豊か
- ・ウズベクの七日の旅に一片の
雲見出せず帰国するなり

(9月5日) 成田空港着。

- ・帰国の日パパやせたねの言葉あり
ダイエット好きの娘がほめる

我らの同好会活動のコーナー

「ウズベキスタン講座」から「ミャンマー講座」へ

「語ろうアースカフェ」世話人 山田 和子(昭49文)

「語ろうアースカフェ」の「マシフラさんのウズベキスタン講座」(全6回)が昨年7月7日に終了しました。ご好評を頂き嬉しく思っています。当初、調布稲門会会員と関係者約50人で始まった講座も市報などの媒体を通じて一般参加者が増え、最終的には108人となりました。

関連イベントとしてウズベク料理講習会を実施。そこで調理されたウズベキスタンのおもてなし料理オシュ(プロフ)をウズベキスタン講座参加者全員に試食して頂きました。そして講座参加者を中心に10人でウズベキスタン旅行を実施。講師の寮信託も訪問し、私たち一行は大勢の方の歓待を受け思い出深い素晴らしい旅になりました。(旅の思い出は山本建治さんの別稿で紹介)

第2回の企画として現在「ミャンマー講座—躍進する仏教国ミャンマーの現在」(全4回、午後6時～

8時)を開催中です。

第1回「ミャンマー入門」(10月25日)、

第2回「伝統と文化」(11月8日)、

第3回「日常生活及び多民族国家の特徴」(1月10日)、

第4回「最新情報と将来の可能性」(2月14日)、講師のトゥカアウンさんが流暢な日本語で、ユーモアを交えながら、エネルギーに講義しています。

今回も講座終了後にミャンマー旅行を計画しました。「ミャンマー周遊の旅」(3月7日～14日、ヤンゴン～バガン～マンダレー～インレー湖～バゴ～ヤンゴン)。講座、旅行についての問合せ先は私、山田和子まで。

電話/Fax : 042-488-0741

Email : kazuko.yamada@jcom.home.ne.jp

ホームページ : kataroearthcafe

「語ろうアースカフェ」の活動、JTB 交流文化賞候補に

上記の「語ろうアースカフェ」の一連の活動に対し、ウズベキスタン旅行の手配を依頼した JTB の事業部から、2014年度 JTB 交流文化賞候補に推薦したいとの申し出があり、昨年9月末にその手続きをしたとの報告がありました。2015年1月末にはその結果が発表されるということです。

週2回、会員22人が楽しく良い汗流す(テニス同好会)

五十嵐 眞(昭37理工)

2014年は錦織圭選手が世界のテニス界で大活躍し、テニスに興味を持たれた方も多いと思います。調布稲門会テニス同好会は同じ硬式テニスですが、どのスポーツにも言えるようにプロの競技とは全く別のスポーツで、あのような格闘技ではありません。

現在、年齢80代から50代までの会員22人で、毎週月、金の2回、午前10時から12時までの2時間の活動をしています。プレイは全て1セット、4ゲーム、ダブルスで、毎セット、男女、年齢を問わずパートナーを替えながら組合せを替え、参加者全員が楽しめるようになってきました。上手な人も初心者の方も、体力のある人もない人も組合せ次第で勝ったり、負けたり、楽しく良い汗を流しています。

筆者は40歳過ぎからテニスを始めましたが、後期高齢者の仲間入りをした現在、やっておいてよかったと実感しています。1976年にプリンス社はストリング面が110平方インチのラケット「クラシック」いわゆるデカラケを発売しました。それより前の1960年代は木製で68平方インチとルールに規定されていたといわれています。テニスを始めた頃、コートにいた老婦人がこのデカラケのおかげで年よりも身体を壊さずにプレイが続けられるのよ、と言っ

(各同好会の代表者と連絡先)



ていたのを覚えています。

ラケット、靴ともに素材や設計が進歩し筋力・体力のなくなった年齢でも無理なく楽しめる時代になっています。

テニスは激しい運動のように見えますが、ダブルスの場合、守備範囲は前後左右数メートルで、適度な反射神経があれば、どなたでもプレイできます。メンバーの中には70歳前後から始めた方もおられ、他のグループでは90歳の方もおられます。

毎週顔を合わせての運動とともにコートの外での定期的な懇親会も含めよいコミュニケーションの場です。調布稲門会の会員同士の交流の場の一つとしてぜひ参加して下さい。

同好会	代表者	電話番号	メールアドレス
囲碁・将棋	大谷 暢廣	042-481-0202	
	早川 政夫	042-487-9610	sazuhaya@jcom.home.ne.jp
カラオケ	小笠原 忠八郎	042-481-6867	net_dream99@ybb.ne.jp
硬式テニス	五十嵐 眞	03-3308-0898	igarashi@w3.dion.ne.jp
ゴルフ	安松 董矩	042-488-5726	s.yasumatsu@jcom.home.ne.jp
社交ダンス	元木 勇	03-3300-4554	btf22hsq4bje57t4y4qt@docomo.ne.jp
太極拳	中野 完二	042-485-0523	
麻雀	濁川 寿次	042-483-6966	
ワングル	石倉 毅	090-8587-1909	isicra996@jcom.zaq.ne.jp
	天野 凡子	042-480-2503	minako-amano@view.ocn.ne.jp
食・歩会	山田 和子	042-488-0741	kazuko.yamada@jcom.home.ne.jp
	大谷 裕子	042-485-7489	wu5mh3@bma.biglobe.ne.jp

(新会員情報) 前号発行時以降、会員になられた方をご紹介します。

(敬称略、氏名、卒年・学部、加入時期)

山田 あかね 平7人間科学 2014年6月

坪井 貞光 昭40理工 2014年8月

平成26年度調布稲門会年会費お払込のお願い

会計担当 石井 宏和

調布稲門会の平成26年度会計期間は平成27年3月31日で終了となります。年会費をまだお払込でない会員の方は至急お手配の程、お願い申し上げます。この紺碧第41号をお届けした際に、郵便払込票が同

封されていた会員の方は平成26年度年会費が未納の会員です。お調べのうえ、平成27年2月末日までにお払込頂きますようご協力よろしくお願い申し上げます。

<編集後記>

S T A P細胞騒ぎからまる1年。理研の自作自演劇に日本中が踊らされ、とりわけ早大関係者にはいい迷惑。私たちOBにも後味の悪さが残りました。で、お口直しに調布稲門会関係の明るい話題を二つ。いずれも今号の記事になっています。ひとつは顧問の吉尾勝征さんが秋の叙勲で旭日中綬章を受章、もうひとつは幹事の山田和子さんの「語ろうアースカフェ」の活動がJTB交流文化賞の候補になったこと。地道で真面目な地域貢献活動が評価されたものです。深大寺本堂脇の碑文「一隅を照らす、これ国の宝なり」のように、早稲田らしさが醸し出された良い話。新年らしく清々しい気分にしてくれます。(高原記)

『紺碧』原稿受付 e メールアドレス: h-takahara@almond.ocn.ne.jp

<p>相續を争族にしないために、公正証書遺言をお勧めします。</p> <p>行政書士堀内綜合法務事務所 行政書士 堀内正之 〒182-0035 東京都調布市上石原三、十二、八 電話・FAX ○四二、四九九、一三〇〇 HPは「調布 行政書士 堀内」で検索</p>	<p>桜田倶楽部 東京テニススケルッジ 会長 秋山 一 住所 〒182-0017 昭和22政経卒 東京都調布市深大寺元町二、三、一 電話 ○四二、四八二、二二〇九</p>	<p>深大寺そば 創業文久年間 ～宴会・俳句会・御法事 元祖 嶋田家 住所 〒182-0017 東京都調布市深大寺元町五、十二、十 電話 ○四二、四八二、三五七八 FAX ○四二、四九九、六六五五</p>	<p>旭化成建材(株)指定工事店 外壁塗装・屋根塗装 株式会社住まいるスズキ 代表取締役 鈴木 光孝 〒182-0023 東京都調布市染地三、五、六五 電話 ○二〇、〇八〇、二四二</p>
<p>林建設株式会社 取締役社長 林 清一 住所 〒182-8512 東京都調布市小島町二、五六、三 電話 ○四二、四八六、一一一 FAX ○四二、四八六、一一二〇</p>	<p>新しい食文化を創る。 株式会社山田屋本店 代表取締役社長 秋沢 淳雄 住所 〒182-0024 東京都調布市布田三、一、一 電話 ○四二、四八二、四五八五 FAX ○四二、四八二、四五七二</p>	<p>早稲田大学商議員 早稲田大学調布稲門会 会長 元 木 勇 自宅 〒182-0003 調布市若葉町二、二二、一〇 電話 ○三、三三〇、四五五四(代) FAX ○三、三三〇、八七二八</p>	<p>宿泊・宴会・婚礼 調布クレストンホテル 住所 〒182-0026 調布市小島町一、三八、一 調布バルコ8510F 電話 ○四二、四八九、五〇〇〇 FAX ○四二、四八九、一〇〇六 http://www.crestonhotel.jp</p>